



平成29年4月28日

各 位

株 式 会 社 関 門 海
代表取締役社長 田中 正
(コード番号：3372 東証二部)
問合せ先 最高財務責任者 関口弘一
電 話 番 号 06-6578-0029 (代表)

非連結決算への移行及び平成29年3月期個別業績予想
並びに特別損失計上に関するお知らせ

当社は、下記理由により平成29年3月期通期決算より非連結決算に移行いたします。移行に伴い、平成28年5月13日付の「平成28年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表しました平成29年3月期の連結業績予想に代わり、最近の業績動向を踏まえた平成29年3月期個別業績予想の数値を算出し下記のとおりお知らせいたします。併せて、特別損失の計上もお知らせいたします。

記

1. 非連結決算への移行理由

当社は、平成29年3月17日を清算終了日として、従前より、事業を停止しておりました連結子会社である株式会社だいもん及び株式会社関門福楽館を清算いたしました。その結果、連結子会社が存在しなくなったことによるものです。

2. 平成29年3月期個別業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期 純利益
通期	百万円 4,710	百万円 159	百万円 42	百万円 △25	円 銭 △2 26

(ご参考)

平成28年3月期個別業績(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期 純利益
通期	百万円 4,505	百万円 173	百万円 112	百万円 20	円 銭 2 03

3. 個別業績予想について

売上高は、まず、主力事業であるとらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」において、継続して美味しさの追求を行い付加価値の高い商品を提供したことによるお客様満足度向上、夏季閑散期対策のためのイタリアンメニューへの取組み、インバウンドのお客様増加に向けた情報発信の徹底やホスピタリティの強化等により、既存店舗においては前年比 106.9%のお客様にご来店いただきました。特に、繁忙期となる 11 月～翌 3 月において新規顧客獲得のための販売促進活動に力を入れた結果、来客数は前年同時期比 109.3%となりました。また、F C 事業においても、エリア F C 制度による全国展開を進めており、当期は新たに 6 店舗の開店に至りました。これらにより、当初の見込みには達しなかったものの、売上高は前期実績数値を上回る見込みです。

一方、付加価値の高い商品を提供するため、価格の高い天然物や養殖でも大型のとらふぐの仕入を強化するとともに、生産者協力のもとお客様満足度の高い品質の良いこだわりのある野菜等への変更を行いました。販売価格を据え置いたことに加え、閑散期需要確保のため比較的割安な商品を提供したことにより、原価率は、直営店舗で前年比 1.2 ポイント上昇、全体では原価率の高い F C 事業の売上シェアが高くなったこともあり前年比 2.9 ポイント上昇しました。更に、広告宣伝費や従業員負荷軽減を図るため商品配送の見直しを行ったことによる運送費の増加等により、営業利益は前年実績数値を下回る見込みです。

経常利益は、財務体質改善のための第三者割当増資関連費用として 22 百万円及び金融機関との交渉により予定より 1 年前倒しで借入条件の見直しを伴うシンジケートローンを実行したことによる手数料 36 百万円を計上した結果、前年実績数値を下回る見込みです。

当期純利益については、減損損失、店舗閉鎖損失等を特別損失に計上した結果、当期純損失となる見込みです。

4. 特別損失の計上について

新たに、当社の保有する固定資産のうち将来の回収可能性を保守的に検討した結果 16 百万円の減損損失を計上いたしました。また、契約期間満了に伴う閉店予定店舗にかかる減損損失 19 百万円及び原状回復費用にかかる店舗閉鎖損失 10 百万円、その他閉店店舗等に伴う店舗閉鎖損失 4 百万円、合計で 50 百万円を特別損失に計上いたしました。

(注) 上記の業績予想は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上